

地獄と極楽の違い

京セラや第二電電（KDDI）創業者として有名な稲盛和夫氏。みなさんも名前は聞いたことがあるかもしれませんが。京セラを世界的企業に成長させ、経営破綻した日本航空の会長に就任し、同社を経営再建するなど「経営の神様」と呼ばれました。また、「人間として何が正しいのか」を座標軸に企業経営し、その経営哲学についての著書は多くの愛読者がいます。

稲盛氏は、若いときから西片擔雪老師(にしかたたんせつ、臨済宗妙心寺派第31代管長)という方に指導いただいていたそうですが、あるとき、次のような話を聞いたそうです。

むかし、若い雲水(うんすい、所定めず遍歴修行する禅僧)がある老師に、「地獄、極楽というのは本当にあるのでしょうか」と尋ねたというのです。禅宗というのは、来世のことについてほとんど教えないからでしょう。老師はすかさず、「うん、確かにある。」と答えます。雲水が、「どんなところなのですか。地獄と極楽というのは」と聞きます。

すると、ご老師は静かに語り始めたそうです。実は、地獄も極楽もちっとも変わらない。少し見ただけでは同じような場所なのだ。けれども、そこに住む人たちの心がまったく違う。

たとえば、おいしい釜揚げうどんが地獄にも、極楽にもある。それぞれ大きな釜があって、お湯がぐつぐつ煮立っている。うどんを湯がいているその大きな鍋の周りを、腹をすかした者たちが10人も20人も取り巻いている。手にはつけ汁のお椀と1メートルもある長い箸を持っている。ここから先が地獄と極楽ではまったく違うのだ。

地獄では、みんなが我先に争って箸を突っ込む。何とか、うどんをつかむことができるのだけれども、箸が1メートルもあるものだから手元のつけ汁のお椀にまで持ってくるのができないし、当然食べることもできない。

そうこうするうちに、向こう側にいる者が箸の先に引っ掛かっているうどんを横取りしようとするので、「それは俺のもんだぞ、食うな」と怒り、相手の箸で叩き、突く。すると、「何を、この野郎」と相手も突き返してくる。そんなことがそこらじゅうで始まって、うどんは鍋から飛び散ってしまっ、誰も一本も食べられずに、殴り合いのけんかが始まってしまい、阿鼻叫喚(あびきょうかん)の絵図と化してしまう、それが地獄なのである。

では、極楽というのはどうなっているのか。極楽にいる者は皆、利他の心、他人を思いやる美しい心を持っている。1メートルの箸でうどんをつかんだら、釜の向こう側の人のつけ汁につけて、「さあ、あなたから先にどうぞ」といって食べさせてあげる。

すると、今度は向こう側の人と同じように自分に食べさせようとしてくれる。1本たりともうどんを無駄にすることなく、みんながおなかいっぱい食べられる。

つまり、地獄と極楽は確かにあるが、それは人の心の在り様がそれらを作り出すのだよと、ご老師は若い雲水に聞かせたというのです。

実際に、いくら経済的に豊かであっても、もっと儲けたいと欲望を際限なく募らせていては、心が満たさせることはなく、決して幸福になれないでしょう。一方、裕福ではなくとも、やさしい思いやりの心をもって、希望に満ちて生きている人たちは幸福を感じることができるはず。やはり人生は、その心の持ち方次第で、地獄にも極楽にもなるのです。

(稲盛和夫著「生き方」「成功への情熱」「人生の王道」等に同様の話が掲載されています)

本当に簡単なことですが、私たちはそれに気付かずに生きているのかもしれませんが。反省。